

平成29年度 兵庫県立北はりま特別支援学校 訪問学級「学校評価」

|                                      |                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【ビジョン】                               | 【ミッション】                                                                                                                                                                                                                          |
| ○特別支援教育は“北はりま”から<br>○みんな大好き！成長し続ける学校 | 1 地域における特別支援教育のセンター的役割を推進する。<br>2 一人一人のニーズに応じた適切な教育支援を行い、自立の力を育む。<br>3 地域での交流活動や様々な体験活動を通じて地域社会で生活する力を伸ばす。<br>4 命や人権を大切にすることを育み、児童生徒の安全・安心を守る教育を推進する。<br>5 校内外の研修を積極的に推進し、教職員の専門性の向上を図る。<br>6 保護者、学校評議員等の意見を参考にし、開かれた学校づくりを推進する。 |

| 【回収データ数】<br>教員データ: のぞく 2人    きずな 11人    合計 13人 |              |      | 【自己評価基準】<br>5 よくできている    4 おおむねできている    3 ふつう<br>2 あまりできていない    1 まったくできていない |                                                                                       |         |         |          |                                                                                                                                               |                                                                                          |
|------------------------------------------------|--------------|------|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------|---------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 領域                                             | 年度努力事項       | 項目番号 | 実践目標                                                                         | 具体的取り組み                                                                               | 本年度自己評価 | 昨年度自己評価 | 2年間の評価比較 | 本年度の成果または課題                                                                                                                                   | 来年度の改善方策                                                                                 |
| 学<br>校<br>運<br>営                               | 開かれた学級づくり    | 1    | 広報活動の推進を図り、積極的な情報公開・発信を実践する。                                                 | 学校だより・学部だよりの定期発行、HPの定期的な更新。連絡ノート等を活用し、日々の学校での様子を家庭に伝える。                               | 4.3     | 4.3     | ➡        | ・毎日の連絡帳や毎月発行の訪問学級だより等を通じて、日々の児童生徒の様子や訪問学級の教育活動全体について保護者に詳しい情報を伝えることができた。<br>・訪問学級だよりは写真を多く掲載し、カラー刷り等でよりわかりやすい内容になるように工夫した。                    | ・引き続き個々の児童生徒と学校全体の様子が保護者に伝わるよう留意する。<br>・HPを活用した情報発信に努める。                                 |
|                                                |              | 2    | オープンスクールや授業公開等、保護者・地域・施設に開かれた学級づくりを推進する。                                     | 年間行事予定としてオープンスクールや各種行事の案内を関係者に行い、企画・運営にも工夫をする。                                        | 4.0     | 3.9     | ➡        | ・今年度もオープンスクール・授業参観を3回実施できた。                                                                                                                   | ・オープンスクールや授業参観の内容等をさらに充実させ、訪問学級の教育活動への理解を推進する。                                           |
|                                                | 教職員の資質向上     | 3    | 訪問学級として研究・公開授業を実施し、協議会を持ち、授業実践力を高める。                                         | 研究テーマを決め、公開授業等の交流を実施し、授業見学・意見交換等を行い、授業力向上を図る。                                         | 3.8     | 3.6     | ➡        | ・今年度も夏季休業中に研究授業を行い、参観した多くの教員と意見交換をして、授業力を高める機会とした。<br>・訪問学級独自の授業形態をできるだけ多くの教員に理解してもらうために参加型公開授業を行った。生徒に関わり、一緒に楽器の演奏を行ったりすることで、理解が深まった。        | ・より充実した内容にできるように意見交換等を行いたい。<br>・訪問学級独自で授業研究、事例研究を実施し、訪問教育の実践力を高める。                       |
|                                                |              | 4    | 施設との連絡会・ケース会議・カンファレンスを計画的に実施する。                                              | 年度当初の施設と訪問学級との調整会議や定期的な訪問学級連絡会、看護師・療法士との意見交換等を行う。                                     | 4.2     | 4.1     | ➡        | ・センター職員との良好な関係を基盤に、個々の児童生徒への対応について日常的に報告や意見交換ができた。                                                                                            | ・ヒヤリハット事案等が発生した時は、発生原因や今後の対策について十分に共通理解を図り、安全・安心な学校づくりに活かす。                              |
|                                                |              | 5    | 各種研修会や多様化事業等を通して実践的指導力や専門性の向上を図る。                                            | 本校での研修会、校外研修会への参加、施設との研修会、他の訪問学級との合同研修、多様化事業講師からの指導助言等で授業力や専門性を高める。                   | 3.5     | 3.5     | ➡        | ・他の訪問学級との合同研修ができてよかった。・訪問教育における専門性の向上を図る研修の場が少ないことが課題である。・本校、施設での研修会には参加できたが、校外での研修会にはあまり参加できなかった。・多様化事業を活用した音楽療法の授業で、世界各地の様々な楽器の音に親しむことができた。 | ・あおのとの研修会を発展させて、県下の訪問学級の研修会の場とする。<br>・校外での研修会に積極的に参加したい。<br>・来年度も同じ多様化講師による継続した指導を計画する。  |
|                                                | キャリア教育の充実    | 6    | 卒業後の生活の見通しを立てた指導を推進する。                                                       | 保護者や施設との相談を密にし、卒業後の生活がスムーズに行えるよう支援する。                                                 | 3.8     | 3.4     | ➡        | ・保護者や施設と打ち合わせを十分行い、連携を図った。<br>・卒業生に対しては、病棟でこまめに声掛け等をして関係性の継続に努めた。                                                                             | ・現在は個々に実施しているが、訪問学級としての移行支援計画の統一様式を作り、施設との引き継ぎをスムーズに行う。                                  |
|                                                |              | 7    | 児童生徒のQOLの向上を目指した教育を推進する。                                                     | 施設職員や保護者と連携協力して、児童生徒のQOLの向上を常に心がけた教育を展開する。                                            | 3.8     | 3.8     | ➡        | ・生徒のQOLについての研究や実践のまとめなどを通して教師の意識の高揚を図った。<br>・生活年齢に応じた教材を準備して、同年代の児童生徒と同じような題材で学習できるように留意した。<br>・担任交代時の引き継ぎを正確に行い、児童生徒のQOLを伸ばすことができた。          | ・引き続き、保護者の願いや意見も反映させながら、個々の児童生徒の合理的配慮事項を決定し、教育活動に反映させる。                                  |
| 教<br>育<br>課<br>程                               | 特色ある教育課程の推進  | 8    | 小・中・高の12年間を見通した教育課程を設ける。児童生徒の障害の特性に応じた弾力的な教育課程を編成する。                         | 学部の実態に応じた教育課程を編成し、障害の特徴や学習上の特性などを踏まえた指導を展開する。                                         | 3.6     | 3.8     | ➡        | ・自立活動を中心に、児童生徒の実態に応じた教育課程を編成し、個別学習・グループ学習・学校行事の内容を工夫した。児童生徒数の減少に伴い、グループ学習を5グループから4グループにした。                                                    | ・学部や児童生徒の実態に応じて、教育課程や指導方法を見直し、改善する。                                                      |
|                                                |              | 9    | 個別学習とグループ学習のバランスを調整し、障害特性に応じた支援・指導を展開する。                                     | 情報交換を大切にしながら教職員の協力体制を確立し、連携を密にして多面的な理解に基づいた指導を行う。                                     | 3.8     | 3.6     | ➡        | ・グループ学習の意義を大切にし、グループの担当者との緊密な連携と協力に基づいた多様なグループ学習を実施することができた。                                                                                  | ・個に応じた指導を徹底するため、個の目標をグループ内で明確にする。グループでの学習の比重が高くなっているため、グループでの学習と個別学習のバランスについては検討する余地がある。 |
|                                                | 個に応じた学習活動の充実 | 10   | 児童生徒個々のニーズに応じた個別の指導計画の作成を行う。                                                 | 保護者・施設のスタッフ、医師、セラピストとの連携の下、子どもの成長や障害の実態に応じた短期目標・長期目標を設定する。前期・後期に評価を適切に行い、目標や指導方法を見直す。 | 4.0     | 3.8     | ➡        | ・クラスで読み合わせをし、協力して個別の指導計画を作成できた。<br>・施設職員との緊密な連携を心がけた。                                                                                         | ・施設や職員間の情報交換、連携協力を密に行うことで、個々の児童生徒の実態やニーズに応じた個別の指導計画を作成する。                                |
|                                                |              | 11   | 個別の指導経過にもとづいた支援と評価を行う。                                                       | 個別の指導計画の目標に合った支援をし、チーム体制で読み合わせと協議を重ねながら適切な評価をする。支援の結果や評価を保護者に説明する。                    | 3.8     | 3.8     | ➡        | ・合理的配慮について保護者の意向を確認し、支援に反映させることができた。                                                                                                          | ・引き続き、日々の支援内容や評価等を保護者に詳しく伝え、指導の改善に活かす。                                                   |
|                                                |              | 12   | 指導方法や指導体制の工夫を行う。                                                             | 障害特性に応じた指導形態や学習グループ構成を工夫し、個に合わせた教材・教具を開発する。毎日の支援・指導の記録をつける。                           | 3.8     | 3.9     | ➡        | ・各グループの特性に応じたグループ学習の内容を工夫した。グループでのふれあいを通じて生徒同士のつながりを深めることができた。                                                                                | ・各グループで事前の打ち合わせと事後の振り返りをしっかりと行う。                                                         |
|                                                | 特別活動(行事)の充実  | 13   | 行事を精選し、行事内容の充実を図る。                                                           | 本校とのスクーリング・学習発表会参加に向けての準備や当日の指導内容を充実させる。在籍人数の増減に伴う学級行事の企画・運営を検討し、改善する。                | 3.8     | 3.9     | ➡        | ・本校の児童生徒との交流体験は、双方の児童生徒にとっての相互理解に資するものであり、今後も継続したい。                                                                                           | ・学習発表会の実施方法、内容について教員間の共通理解を図り、計画的に準備を行う。                                                 |
|                                                |              | 14   | 行事の計画及び実施の改善を図る。                                                             | 施設等との打合せをしながらの年間及び各月毎の行事予定表の作成。行事後の反省を踏まえた次年度の行事立案を推進する。                              | 3.8     | 4.0     | ➡        | ・健康状態を把握し、施設と十分に連携して、各行事をスムーズに実施できた。<br>・施設との連携で、呼吸器装着の児童も含めて、全員無事に修学旅行に行くことができた。                                                             | ・毎月の訪問学級連絡会では、行事日程の調整だけでなく、児童生徒情報の交換をさらに積極的に行っていきたい。                                     |

|                  |                |    |                          |                                                                             |     |     |
|------------------|----------------|----|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----|-----|
| 課<br>題<br>教<br>育 | 道徳・人権教育の充実     | 15 | 障害のある人に対する理解啓発に努める。      | 交流やホームページでの情報発信を通して、障害のある人への正しい理解と望ましい支援のあり方についての理解啓発を図る。                   | 3.5 | 3.7 |
|                  |                | 16 | 特別支援学校としての人権教育体制の確立に努める。 | 障害のある児童生徒の人権、生活年齢に配慮した指導を行う。                                                | 3.8 | 4.0 |
|                  | 衛生管理と安全教育の確立   | 17 | 衛生管理・健康管理に努める。           | 重症心身障害児童生徒の教育に携わることを常に念頭に置き、児童生徒の健康に配慮した衛生管理・健康管理を徹底する。また、教員も自身の健康管理に努める。   | 4.2 | 4.1 |
|                  |                | 18 | 安全教育の徹底に努める。             | 安全な学習環境、生活環境を確保するため、施設・設備・教材・教員の点検・管理を定期的・日常的に行うとともに、生徒の安全に配慮した指導体制の徹底に努める。 | 3.8 | 4.1 |
|                  | 社会参加活動・交流教育の充実 | 19 | 本校・近隣学校との交流を深める。         | 地元小学校・中学校・高等学校・特別支援学校や本校等との交流を推進する。                                         | 2.8 | 2.4 |
|                  |                | 20 | 施設や地域社会との交流を深める。         | 施設行事を通じての地域住民との交流や、学級行事への施設職員の招待・交流を行う。                                     | 2.9 | 3.1 |

\* 本年度の学校・各部署・各学部の教育活動や取り組み等についての意見・感想

|   |                                                                                                         |                                                                                                  |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ➡ | ・児童生徒の日々の様子が伝わるようにHPの内容を工夫した。                                                                           | ・HPの定期的な更新に努める。                                                                                  |
| ➡ | ・生活年齢に配慮した教育活動の推進に留意した。                                                                                 | ・児童生徒の人権への配慮について研修等を実施し、さらに共通理解を深める。                                                             |
| ➡ | ・児童生徒への感染予防のため、インフルエンザ予防接種、B型肝炎検査の全員接種を行った。<br>・清潔・安全を確保するため、教育活動中の消毒の徹底に努めた。                           | ・引き続き、消毒液やペーパータオル等を用いて、衛生管理の徹底に努める。                                                              |
| ➡ | ・車椅子への移乗を複数名で行う。<br>・共有して使用する教材については安全性や清潔の確保が困難な事例があった。<br>・ヒヤリハット事案が多く発生した。                           | ・引き続き、児童生徒の移乗を複数名で行うことを徹底する。<br>・訪問学級独自のヒヤリハットを設けて、事故予防に努める。<br>・安全な学習環境の維持に向けて、個々の教員の意識をさらに高める。 |
| ➡ | ・訪問学級のため、外部との交流に制限があり、訪問学級独自の交流が実現していない。<br>・本年度も播磨農業高校で本校高等部と合同のボドウ狩りを実施することができた。                      | ・施設の協力のもと、外部との何らかの交流活動ができるようにしたい。                                                                |
| ➡ | ・外部と交流できる行事があることが望ましいが、様々な制限があり難しい。<br>・施設における地域住民との交流行事である「なつまつり」等に訪問学級職員も参加することにより、生徒の交流活動を進めることができた。 | ・施設の交流行事に今後も積極的に参加・協力していきたい。                                                                     |

➡ 昨年度と比較して、評価結果数値に変化なしまたは0.2以内の変化あり。

➡ ➡ 昨年度と比較して、評価結果数値に0.3以上～0.5未満の変化あり。

↑ ↓ 昨年度と比較して、評価結果数値に0.5以上の変化あり。